

テーマ3 資源循環型社会の構築

施策の柱3.1 4Rの推進

目標9

市民1人1日あたりの資源物を除いたごみの排出量を令和2年度(2020年度)までに614gにします。

【目標担当課:資源循環課】

*平成20年度(2008年度)時点での市民1人あたりの資源物を除いたごみの排出量は763gとなっています。

*目標9は「茅ヶ崎市一般廃棄物(ごみ・生活排水)処理基本計画」と整合性を図った数値としています。

平成30年3月の同計画の改訂に伴い、平成30年度の取り組みより目標値を574gから614gに変更しました。

目標10

リサイクル率を令和2年度(2020年度)までに27.0%にします。

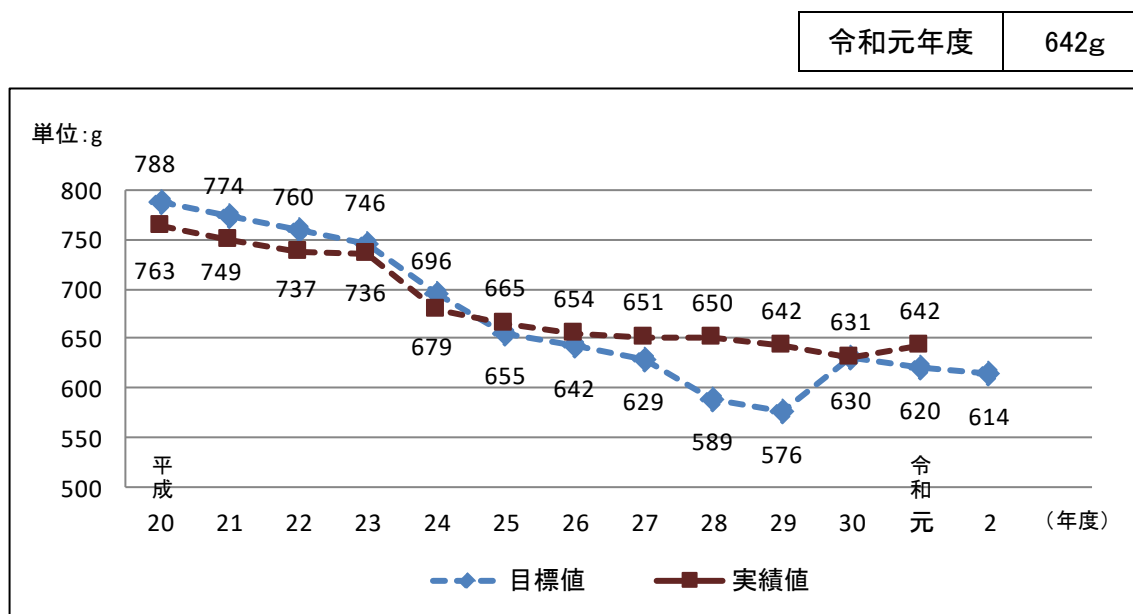
【目標担当課:資源循環課】

*ごみの排出量に占める資源物の割合。①資源ごみとして回収したもの、②収集後の選別処理により回収したもの、③焼却灰の熔融化量等をごみ排出量で除したもの。

*目標10は「茅ヶ崎市一般廃棄物(ごみ・生活排水)処理基本計画」と整合性を図った数値としています。平成30年3月の同計画の改訂に伴い、平成30年度の取り組みより目標値を34.7%から27.0%に変更しました。

■目標9の進捗状況

●市民1人1日あたりのごみ排出量の推移(資源物を除く)



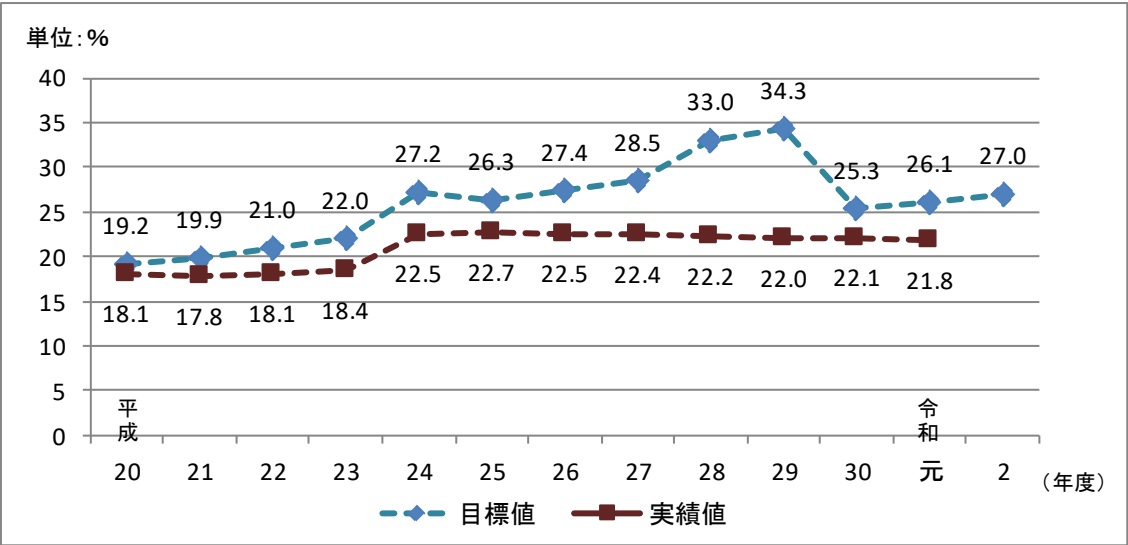
*単年度の目標値は「一般廃棄物(ごみ・生活排水)処理基本計画」によるもの。

(平成24年度までは20年3月策定の計画、25から29年度までは25年3月改訂の計画、30年度以降は30年3月に改訂した計画より抜粋)

■目標10の進捗状況

●リサイクル率の推移

令和元年度	21.8%
-------	-------



*単年度の目標値は「一般廃棄物(ごみ・生活排水)処理基本計画」によるもの。
 (平成24年度までは20年3月策定の計画、25から29年度までは25年3月改訂の計画、30年度以降は30年3月に改訂した計画より抜粋)

(参考)資源物排出量の推移

単位：t

項目		平成30年度			令和元年度		
		予測(A)	実績(B)	(A)－(B)	予測(A)	実績(B)	(A)－(B)
びん		2,130	1,734	396	2,156	1,701	455
かん		832	681	151	842	699	143
ペットボトル		755	721	34	764	724	40
古紙類	新聞チラシ	1,158	700	458	1,172	627	545
	本・雑誌・雑紙	4,125	3,243	882	4,175	3,373	802
	段ボール	3,127	2,778	349	3,165	2,747	418
	飲料用紙パック	80	57	23	82	57	25
衣類・布類		1,147	1,072	75	1,161	1,161	0
プラスチック製容器包装類		2,526	2,351	175	2,556	2,440	116
廃食用油		79	84	-5	80	87	-7
金属		84	67	17	85	69	16
小型家電		1	12	-11	2	20	-18
合 計		16,044	13,500	2,544	16,240	13,705	2,535

②① リフューズ(要らないものを買わない・断る)

■ 概要

- ・マイバッグ持参の普及に向けた取り組みを推進します。
- ・不要なレジ袋及び過剰包装の辞退をはじめ、不要なものを「買わない」、「受け取らない」という生活様式が本市の文化として定着するよう啓発事業を推進します。

■令和元年度の取り組み

(1)リフューズを念頭に置いた生活様式の定着に向けた啓発事業の推進

具体的な取り組み	実施内容	第4次実施計画事業名 及び令和元年度事業費*	担当課
マイバッグ持参の推進に向けた啓発活動	・自治会を対象にした説明会の中で、市民の取組みの一例として、マイバッグ持参を啓発しました。	ごみの減量化・資源化に関する啓発事業 予算額【1,811千円】 決算額【1,561千円】	資源循環課
市内事業者へのレジ袋削減の協力呼びかけ	・市内事業者向けに説明会を開催し、協力を呼びかけました。		
「ごみ通信ちがさき」の発行等を通じたごみ処理に対する意識啓発事業	・「ごみ通信ちがさき」を10月、3月に発行し、「ごみ減量化基本方針」や「ごみの処理の流れや経費」を特集し、ごみ処理に対する意識啓発を行い、ごみの減量化・資源化を促しました。		

*事業費は該当する第4次実施計画事業全体の事業費を示すもので「具体的な取り組み内容」個別の事業費を示すものではありません。

■成果・課題と評価

成果	評価
・マイバッグ持参について、自治会や事業者に対し、機会をとらえて啓発活動を継続することができた。	B
課題	A: 極めて順調に進んでいる B: おおむね順調に進んでいる C: ある程度進んでいる D: あまり進んでいない E: 積極的な取り組みが必要 -: 取り組みなし(評価不能)
・レジ袋有料化に伴い、マイバッグへの意識は高まっています。今後は、リフューズに対する啓発として、食品ロス削減の基本である、買物時に「買いすぎない」、料理を作る際「作りすぎない」、外食時に「注文しすぎない」、そして「食べきる」こと、といった考え方をライフスタイルに浸透させていく必要があります。	



■概要

- ・ごみの排出状況や市民活動団体等の取り組み、また「茅ヶ崎市廃棄物減量等推進審議会」における協議内容を分かりやすく周知し、行動改善を促進します。
- ・ごみ処理施設の見学等をはじめ、特に子どもを対象とした学習機会の充実を図ります。
- ・事業者に対して積極的に「ごみ減量・リサイクル推進店」(※)制度への参画を呼びかけ、簡易包装やばら売りの推進を図ります。
- ・必要に応じて家庭ごみの有料化の導入に向けて検討を行います。

■令和元年度の取り組み

(1) ごみの排出状況や市民活動団体等の取り組み内容の周知と行動改善の促進

具体的な取り組み	実施内容	第4次実施計画事業名 及び令和元年度事業費*	担当課
「ごみ通信ちがさき」の発行等を通じたごみ処理に対する意識啓発(再掲)	・「ごみ通信ちがさき」を10月、3月に発行し、「ごみ減量化基本方針」や「ごみの処理の流れや経費」を特集し、ごみ処理に対する意識啓発を行い、ごみの減量化・資源化を促しました。	ごみの減量化・資源化に関する啓発事業 予算額【1,811千円】 決算額【1,561千円】	資源循環課
生ごみ処理容器(※)、家庭用電動式生ごみ処理機(※)の普及啓発、購入補助	・生ごみ処理容器のあっせん72台、家庭用電動式生ごみ処理機(※)の購入補助40件を行いました。	ごみの減量化・資源化に関する支援事業 予算額【1,447千円】 決算額【1,318千円】	
コンポスト(※)の工夫や使用方法の発信、購入者に対するアフターフォロー	・窓口で使用方法のチラシを配布し、口頭でアドバイス等を行いました。		

*事業費は該当する第4次実施計画事業全体の事業費を示すもので「具体的な取り組み内容」個別の事業費を示すものではありません。

(2) 子どもを中心とした学習機会の充実

具体的な取り組み	実施内容	第4次実施計画事業名 及び令和元年度事業費*	担当課
小中学生を対象とした出前講座の実施	・小学校8校、中学校4校で出前講座を実施しました。	ごみの減量化・資源化に関する啓発事業 予算額【1,811千円】 決算額【1,561千円】	資源循環課

*事業費は該当する第4次実施計画事業全体の事業費を示すもので「具体的な取り組み内容」個別の事業費を示すものではありません。

(3) 事業者に対する簡易包装やばら売りの推進

具体的な取り組み	実施内容	第4次実施計画事業名 及び令和元年度事業費*	担当課
ごみ減量・リサイクル推進店の周知と加入促進	・市内の大型ごみ証紙販売店を中心に認定店の拡大を図るとともに、既存店の実数把握に取り組みました。	ごみの排出抑制推進事業 予算額【36,963千円】 決算額【35,773千円】	資源循環課
ごみ減量・リサイクル推進店を活用したキャンペーン	・環境フェア(※)にてパネル展示を実施し、また、「ごみ通信ちがさき」に記事掲載を行うことで、認定店の利用メリットのPRを行いました。		

*事業費は該当する第4次実施計画事業全体の事業費を示すもので「具体的な取り組み内容」個別の事業費を示すものではありません。

(4) 一般廃棄物(ごみ・生活排水)処理基本計画に基づく可燃ごみ減量への取り組み

具体的な取り組み	実施内容	第4次実施計画事業名 及び令和元年度事業費	担当課
家庭ごみの有料化検討	・有料化をはじめとするごみ減量に向けた各種施策を位置づけた「茅ヶ崎市ごみ減量化基本方針」を市民や事業者への説明会、パブリックコメント手続きを経て、年度末に策定しました。	家庭ごみ有料化導入の 検討業務 予算額【12,637千円】 決算額【19,540千円】	資源循環課
学校給食残さ資源化事業の検討	・資源化の実施にあたっては、多額の費用が必要となることから、効率的な手法について引き続き検討を行いました。		

※事業費は該当する第4次実施計画事業全体の事業費を示すもので「具体的な取り組み内容」個別の事業費を示すものではありません。

■成果・課題と評価

成果	評価
「ごみ通信ちがさき」の発行やコンポストの使用法の発信、出前講座の実施等を通じたごみの排出抑制に関する啓発活動を実施しました。 - パネル展示を通じてごみ減量・リサイクル推進店に関する広報を行いました。 - 有料化を含むごみ減量に向けた各種施策を位置づけた「茅ヶ崎市ごみ減量化基本方針」を年度末に策定しました。	B A: 極めて順調に進んでいる B: おおむね順調に進んでいる C: ある程度進んでいる D: あまり進んでいない E: 積極的な取り組みが必要 -: 取り組みなし(評価不能)
課題 - 市民1人1日当たりのごみの排出量を昨年度と比較すると、これまで減少傾向であったものが微増に転じました。目標達成に向け、ごみ減量化について引き続き「ごみ通信ちがさき」等で啓発を継続する必要があります。 - 家庭ごみの有料化については、「茅ヶ崎市ごみ減量化基本方針」を策定しましたが、一方でさらなるごみの減量化を実現して市民の理解が得られるように丁寧に進めていくことが求められます。	

私たちの街の「ごみ減量・リサイクル推進店」

市では、簡易包装の実施や詰め替え用品の販売など、ごみ減量やリサイクルに積極的に取り組む市内の販売店を「ごみ減量・リサイクル推進店」に認定しています。お店の目印は「リサル君ステッカー」! 毎日のお買い物に、ぜひ、リサイクル推進店をご利用ください。※リサイクル推進店を随時募集しています。詳細は資源循環課までお問い合わせください。

このマークが目印です!
マスコットキャラクター
リサル君



ごみ減量・リサイクル
推進店制度



店名	店名	店名	店名
クリエイトS・D 茅ヶ崎今宿店	ローソン 茅ヶ崎東海岸南店	ミートこじま	ちがさきデポー
クリエイトS・D 茅ヶ崎門蔵文楽点前店	ローソン 茅ヶ崎芝沼店	有限会社小林園	ニュータウンサイクルごとう
クリエイトS・D 茅ヶ崎門蔵店	ファミリーマート 茅ヶ崎富士見町店	有限会社萩園ふとん店	あるえつと美容室
クリエイトS・D 茅ヶ崎高田店	ファミリーマート 茅ヶ崎小和田三丁目店	風屋酒店	さつき園 (浜見平本店)
クリエイトS・D 茅ヶ崎松林店	ミニストップ 茅ヶ崎東店	久米自転車商会	有限会社ハマミ薬局
クリエイトS・D 茅ヶ崎常盤町店	生活協同組合ユーコープ 旭が丘店	布・工房 くまじ	AKASIA
クリエイトS・D 茅ヶ崎萩園店	生活協同組合ユーコープ 萩園店	Loco Kitchen	株式会社レンティーズ
クリエイトS・D 茅ヶ崎松が丘店	ミアクチャー 高田店	青木保寿堂薬舗	田中自転車店
クリエイトS・D 茅ヶ崎みずき店	ミアクチャー 藤島店	香川屋内店	坂田酒店
クリエイトS・D 茅ヶ崎矢野店	FUJI 鶴島店	くまじ東興	株式会社イトーヨーカ堂 茅ヶ崎店
クリエイトS・D 茅ヶ崎三通り店	FUJI 松が丘店	鈴木米店	創庫生活館 茅ヶ崎香川店
クリエイトS・D 辻堂駅西口店	イオンスタイル湘南茅ヶ崎	八百六商店	八幡酒店
株式会社たまや 幸町店	イオン 茅ヶ崎中央店	有限会社さがみ	株式会社家具マートはせがわ
株式会社たまや 茅ヶ崎南店	WE ショップちがさき 十間坂店	有限会社三橋商店	有限会社車堀企画
株式会社たまや 浜竹店	WE ショップちがさき ちがさき店	有限会社モリサイクル茅ヶ崎店	茅ヶ崎市身体障害者福祉協会 売店「パンビ」
株式会社たまや 浜見平店	大貫餅子産村	若林酒店	エスパティオ 小和田店
セブン・イレブン 茅ヶ崎門蔵一丁目店	株式会社 馬場生花	蔵のおかわ	有限会社シマヤ(コミュニティストアシマヤ)
セブン・イレブン 茅ヶ崎松林二丁目店	カワグチスポーツ	有限会社三浦青果店	株式会社湘南総建
セブン・イレブン 茅ヶ崎サンビーチ店	合資会社 吉沢商店 八百梅	理容ふじまき	長崎屋建築有限会社
ローソン・スリーエフ 東香川店	茅花堂薬局	株式会社三光電気商会 鶴が台店	相模屋薬局
ローソン・スリーエフ 茅ヶ崎松林店	トモエクリエーニング	高田石油株式会社	

※令和2年2月5日現在 83店舗

ごみ減量・リサイクル推進店
「ごみ通信ちがさき」春号(令和2年3月発行)より

■概要

- ・家庭用品の再利用を促進するため、各種制度や取り組みの運営推進に努めます。
- ・リサイクル推進店未認定のリサイクルショップやリターナブルびん(※)取扱店、リペアショップなどの認定を促進し、認定店舗の情報を市民・事業者が発信することで資源の有効活用とごみの減量化を図ります。

■令和元年度の取り組み

(1) 家庭用品の再利用促進、各種制度や取り組みの運営推進

具体的な取り組み	実施内容	第4次実施計画事業名 及び令和元年度事業費*	担当課
FKP(不要品回収プロジェクト)	・梅田小学校運営委員会とNPO法人もったいないジャパンに御協力いただき、環境フェア(※)において来場者から不要品を回収し、その売却益を環境に関する基金に寄附していただくFKP(不要品回収プロジェクト)を実施しました。(回収点数878点、寄附金額16,220円)	環境フェア開催事業	環境政策課
環境フェアにおけるリユース食器の活用	・環境フェアの飲食店コーナーにおいて、出店者の協力により、リユース食器を活用しました。	予算額【975千円】 決算額【835千円】	
環境フェアにおけるリユースイベントの実施	・環境フェアにおいて、「不要品回収イベント～FKP×もったいないジャパン～」や、環境事業センターによるリサイクル家具展示・抽選申込、古本市、おもちゃ病院等を開催し、再利用促進をPRしました。		
出前講座や環境学習の実施	・小中学校12校及び2自治会で、出前講座等を実施しました。また、84自治会で実施した「茅ヶ崎市ごみ減量化基本方針(素案)」の説明会の中で、「始めようごみ減量生活」と題した講座を実施しました。	ごみの減量化・資源化に関する啓発事業 予算額【1,811千円】 決算額【1,561千円】	資源循環課
ごみ減量・リサイクル推進店(※)を活用したキャンペーン(再掲)	・環境フェアにてパネル展示を実施し、また、「ごみ通信ちがさき」に記事掲載を行うことで、認定店の利用メリットのPRを行いました。	ごみの排出抑制推進事業 予算額【36,963千円】 決算額【35,773千円】	

* 事業費は該当する第4次実施計画事業全体の事業費を示すもので「具体的な取り組み内容」個別の事業費を示すものではありません。

(2) リユースについての情報集約・発信

具体的な取り組み	実施内容	第4次実施計画事業名 及び令和元年度事業費*	担当課
「ごみ通信ちがさき」の発行等を通じたごみ処理に対する意識啓発(再掲)	・「ごみ通信ちがさき」を10月、3月に発行し、「ごみ減量化基本方針」や「ごみの処理の流れや経費」を特集し、ごみ処理に対する意識啓発を行い、ごみの減量化・資源化を促しました。	ごみの減量化・資源化に関する啓発事業 予算額【1,811千円】 決算額【1,561千円】	資源循環課

* 事業費は該当する第4次実施計画事業全体の事業費を示すもので「具体的な取り組み内容」個別の事業費を示すものではありません。

■成果・課題と評価

成果	評価
・環境フェアにおけるFKPの実施やリユース食器の活用によって、リユースに関する周知を図ることができました。 ・出前講座や自治会での説明会等の機会を通じ、リユースに関する周知を図ることができました。	C
課題	
・民間事業者によるリユース事業の進展に伴い、不要品登録制度やリサイクル品展示室の閉鎖など、事業内容を見直してきました。今後も社会情勢等を踏まえたリユース促進につながる取り組みを検討していく必要があります。	A: 極めて順調に進んでいる B: おおむね順調に進んでいる C: ある程度進んでいる D: あまり進んでいない E: 積極的な取り組みが必要 -: 取り組みなし(評価不能)

■概要

- ・資源物における分別品目の拡充を図ります。
- ・食品残渣の循環についてより身近に意識してもらえるよう、市民農園や家庭菜園を対象にコンポスト(※)設置と利用を啓発し、実施可能な資源化施策の推進を図ります。
- ・バイオガス化の検討を行います。

■令和元年度の取り組み

(1) 資源物における分別品目の拡充と情報発信

具体的な取り組み	実施内容	第4次実施計画事業名 及び令和元年度事業費*	担当課
使用済小型家電の収集(※)	・4月より対象品目の拡大を行い、収集量の増加を図るとともに、民間事業者が実施している宅配便によるサービスも継続して実施しました。	資源化促進事業 予算額【250,076千円】 決算額【247,077千円】	資源循環課
剪定枝(※)の資源化検討・研究	・剪定枝の収集運搬・処分の具体的な事業スキームについて、検討しました。		
インクカートリッジ里帰りプロジェクト	・市役所本庁舎等3箇所にインクカートリッジ回収箱を設置し家庭用インクカートリッジを回収しました(回収量25.93kg)。 ・茅ヶ崎市商店会連合会のインクカートリッジ回収プロジェクトに協力し、回収したインクカートリッジを小中学校に配布しました。(回収量約67kg)	省エネルギー及び地球温暖化対策に対する普及啓発事業 予算額【113千円】 決算額【84千円】	環境政策課
「ごみ通信ちがさき」の発行等を通じたごみ処理に対する意識啓発(再掲)	・「ごみ通信ちがさき」を10月、3月に発行し、「ごみ減量化基本方針」や「ごみの処理の流れや経費」を特集し、ごみ処理に対する意識啓発を行い、ごみの減量化・資源化を促しました。	ごみの減量化・資源化に関する啓発事業 予算額【1,811千円】 決算額【1,561千円】	資源循環課
適正分別のための啓発、情報提供	・「ごみと資源物の分け方・出し方」及び「ごみと資源物の収集カレンダー」を発行するとともに、市ホームページ、「ごみ通信ちがさき」を作成し、各種広報媒体を活用することで、啓発・情報提供に努めました。		

*事業費は該当する第4次実施計画事業全体の事業費を示すもので「具体的な取り組み内容」個別の事業費を示すものではありません。

(2) 食品残渣の循環と実施可能な資源化施策の推進

具体的な取り組み	実施内容	第4次実施計画事業名 及び令和元年度事業費*	担当課
家庭菜園利用者に対するコンポストの利用案内	・家庭菜園利用者に対してコンポストの説明を行い、普及に努めました。	ごみの減量化・資源化に関する啓発事業 予算額【1,811千円】 決算額【1,561千円】	資源循環課
学校給食残渣資源化事業の検討(再掲)	・資源化の実施にあたっては、多額の費用が必要となることから、効率的な手法について引き続き検討を行いました。	家庭ごみ有料化導入の検討業務 予算額【12,637千円】 決算額【19,540千円】	

*事業費は該当する第4次実施計画事業全体の事業費を示すもので「具体的な取り組み内容」個別の事業費を示すものではありません。

■成果・課題と評価

成果	評価
・さらなるごみの資源化・減量化を図るため、使用済小型家電の回収対象品目を拡大しました。 ・食品残渣については、実施可能な資源化施策として、引き続き、コンポストの普及等に関する取り組みを推進することができました。 ・剪定枝の資源化について、収集方法の検討等、導入に向けた取り組みを進めることができました。	C
課題	A:極めて順調に進んでいる B:おおむね順調に進んでいる C:ある程度進んでいる D:あまり進んでいない E:積極的な取り組みが必要 -:取り組みなし(評価不能)
・リサイクルについては、「ごみ通信ちがさき」等で啓発を行っていますが、リサイクル率が昨年度と比較し、微減傾向となっており、目標達成に向けて、分別の徹底を目指しより効果的な情報発信が必要です。 ・剪定枝の資源化について、事業スキームの検討を進める必要があります。	



インクカートリッジ里帰りプロジェクト
回収BOX

茅ヶ崎市 使用済小型家電のボックス回収 ～リサイクルにご協力ください～

小型家電には、金属のほか、金や希少金属（レアメタル等）が使用されていますが、ごみとして捨てられたり、家庭で眠ったままになっています。茅ヶ崎市では、この大切な資源をリサイクルするため、使用済小型家電のボックス回収を行っています。

○「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」（小型家電リサイクル法）
小型家電に利用されている有用なものの相当部分が回収されずに廃棄されている状況に鑑み、使用済小型家電の再資源化を促進するための措置を講ずることにより、資源の有効な利用の確保を図り、生活環境の保全及び国民経済の健全な発展に寄与することを目的として、2013年4月1日に施行されています。

○回収対象品目を拡大しました！！
2019年4月1日より、さらなるごみの資源化・減量化を図るため、以下のとおり、回収対象品目を拡大しました。

品目	変更前（～2019年3月末）	変更後（2019年4月～）
指定17品目（携帯電話等）	→	回収ボックス投入口（30×15cm）に入り、奥行き30cm程度の大きさの小型家電（電気・電池で動くもの）

回収対象品例 30cm×15cmの投入口に入り、奥行き30cm程度の大きさで、電気・電池で動くものに限りです！

携帯電話

PDA

電話機

デジタルカメラ

ビデオカメラ

電子書籍端末

MPプレーヤー

CDプレーヤー

ICレコーダー

デッキを置くテープレコーダー

デジタルオーディオプレーヤー（フラッシュメモリ、HDD）

補助記憶装置

電子辞書

電卓

据置型ゲーム機

携帯型ゲーム機

小型ノートパソコン

※ 電圧や電流等の仕様異なる品、テレビ等の大型リサイクル対象品目を除く。回収ボックスに入らないものは、主に資源局等にご持参ください。

【問い合わせ先】茅ヶ崎市環境部資源循環課 0467-82-1111

回収方法などは裏面をご確認ください。

使用済小型家電の回収ちらし

施策の柱3.2 地域資源を活かす地産地消の推進

目標11

地元農畜水産物を取り扱う店舗を、令和2年度(2020年度)までに90店舗にします。

【目標担当課:農業水産課】

※ここで掲げる地元農畜水産物を取り扱う店舗とは、「茅産茅消応援団(※)」参加店舗数を指します。

目標12

学校給食における地場産農水産物の使用品目数について、令和2年度(2020年度)まで15品目以上を維持します。

【目標担当課:学務課】

目標13

環境に配慮した農業に取り組む農業者や協力者を増やします。

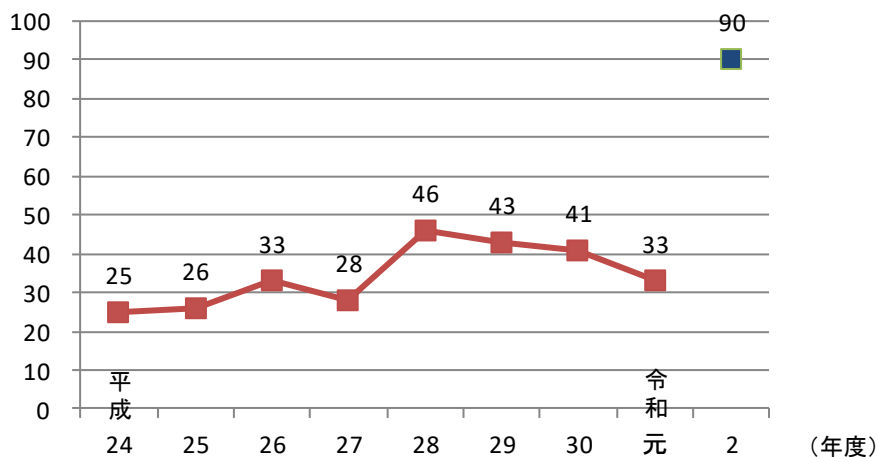
【目標担当課:農業水産課】

■目標11の進捗状況

●茅産茅消応援団参加店舗数

項目	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
店舗数	25店舗	26店舗	33店舗	28店舗	46店舗	43店舗	41店舗	33店舗

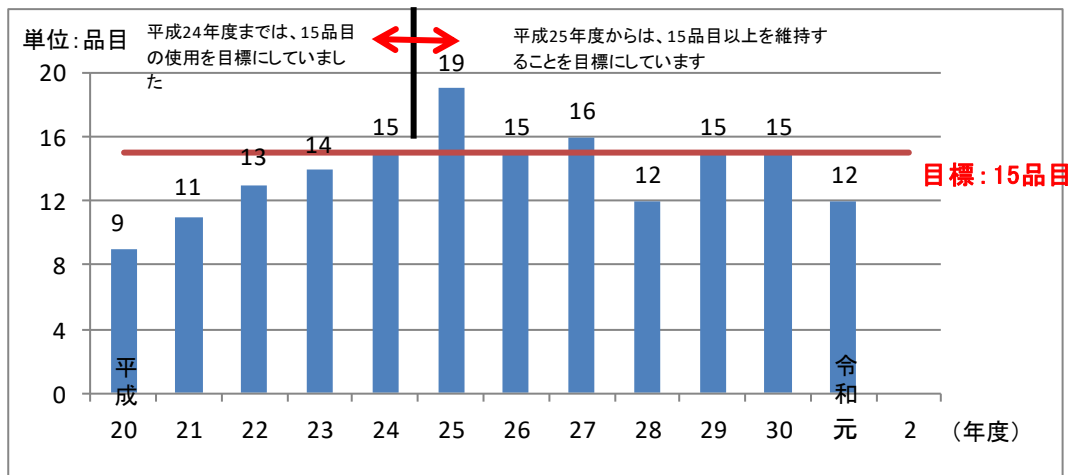
単位:店舗



■目標12の進捗状況

●学校給食における地場農水産物の使用品目数

項目	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
品目数	15品目	19品目	15品目	16品目	12品目	15品目	15品目	12品目



■目標13の進捗状況

●エコファーマー(※)認定生産者数

項目	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
人数	3名	3名	3名	2名	3名	3名	2名	1名

●マルハナバチ導入育成事業補助金

項目	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
件数	16件	16件	19件	17件	18件	17件	15件	14件

●熱水・土壌病害虫防除事業補助金

項目	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
件数	2件	2件	1件	2件	1件	1件	1件	1件

●土壌改良事業補助金

項目	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
件数	74件	68件	48件	62件	66件	59件	56件	40件

●施設野菜病害虫防除事業補助金

項目	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
件数		22件	24件	21件	22件	25件	21件	22件

■概要

- ・地域農業の活性化、食の安全の確保を目的に、地域で採れたもの(資源)を地域で消費する「地産地消」(循環)を推進します。
- ・学校給食における地場産食材を使ったメニューの開発や、小売業、生産者との連携による地産地消の推進を図ります。
- ・市内における地産地消の取り組みや方法等を市民や事業者へ広く紹介し、地場産農水産物・加工品の利用を促進します。
- ・関係機関と協力し、生産者と地域住民が交流しながら地場産農水産物・加工品を販売する場の拡充をはじめ、生産者のニーズに合った販路の拡大に対する支援を進めます。

■令和元年度の取り組み

(1) 学校給食における地産地消の推進

具体的な取り組み	実施内容	第4次実施計画事業名 及び令和元年度事業費*	担当課
保育園給食における地場産野菜などの使用	・茅ヶ崎青果商組合などに御協力いただき、できる限り使用しました。 ・市内産の野菜を使った献立の時には、給食時間の話題とし、園児が地産に興味を持てるように取り組みました。	児童指導育成事業 予算額【55,283千円】 決算額【54,237千円】	保育課
地場産野菜と水産物の継続的な使用	・青果市場、生産者、青果商組合の協力により茅ヶ崎産野菜が市場に出された場合には、優先的に給食用として納品いただいています。また、茅ヶ崎カレーや夏期のかぼちゃについては、地場産野菜を使用することをあらかじめ決めている場合は、市場と生産者の協力により必要な野菜の量と時期を合わせて生産量の調整などもお願いしています。また、水産物の「湘南しらす」については、毎年11月の献立に入っていますが、令和元年度は台風の影響もあり全校分の供給ができず数校のみの使用となりました。		
全校共通による地場産食材を使用した献立の提供	・6月に「地場産夏カレー(なす、かぼちゃ、トマト)」、7月に「かぼちゃのそぼろ煮(かぼちゃ)」、9月には「じゃがなすマーボー(なす)」、10月は「ちがさき秋カレー(さつま芋)」、11月には「古代米ごはん(黒米)」、1月には「ちがさきカレー(ほうれんそう)」を実施しました。	学校給食の管理及び運営等に係る事務	学務課
茅ヶ崎産新米を使った給食を提供	・11月から12月にかけて茅ヶ崎産米5tを購入し、市内各小学校において5回から6回にわたり茅ヶ崎産新米による給食を実施しました。茅ヶ崎産米はさがみ農業協同組合の協力を得て検査を実施し、市内米穀店で精米をしたものを使用しました。	予算額【19,955千円】 決算額【19,538千円】	
児童や保護者への地場野菜使用の周知	・「給食だより」(月1回)、「ミニ給食ニュース」(毎日)や地場野菜デーの際、生産者や流通に関わった業者へインタビューした時の顔写真やコメントを校内掲示板に掲示しました。また、児童から生産者へ御礼の手紙を送りました。		
栄養士による茅ヶ崎の農業についての学習、生産者・市場等との連絡調整	・毎月青果商組合から、地場野菜の最新情報を得て、各小学校の栄養士に連絡することにより献立の組み替え作業時に当月の間でより多くの地場産野菜が使用できるよう調整しています。		

* 事業費は該当する第4次実施計画事業全体の事業費を示すもので「具体的な取り組み内容」個別の事業費を示すものではありません。

(2) 市内における地産地消の取り組み、方法等の紹介と、地場産農水産物・加工品の利用促進

具体的な取り組み	実施内容	第4次実施計画事業名 及び令和元年度事業費*	担当課
市内飲食店組合に対する茅産茅消応援団(※)への参画呼びかけ	・青果商組合と魚商組合に協力いただき、地場産農水産物が入った際には、のぼり旗を店頭に掲げていただき、見える化を図っていただきました。また茅産茅消青果まつり実行委員会による「青果まつり」に市内飲食店組合に参加していただきました。	農産物地産地消 推進事業	農業水産課
地産地消の周知	・春・秋の農業まつりをはじめ、果樹の持寄品評会、市の花の展覧会、湘南花の展覧会などを開催したほか、関係機関や団体により開催されるイベントの開催支援を行い、地場農産物の魅力のPRを行いました。また、親子を対象とした農業・漁業体験プロジェクト等の市民参加型の事業を実施することで、地産地消の推進につながる意識を醸成しました。	予算額【20,099千円】 決算額【15,551千円】	

*事業費は該当する第4次実施計画事業全体の事業費を示すもので「具体的な取り組み内容」個別の事業費を示すものではありません。

(3) 生産者と地域住民との交流、地場産農水産物・加工品を販売する機会の拡充

具体的な取り組み	実施内容	第4次実施計画事業名 及び令和元年度事業費*	担当課
買い物ツアー、各種品評会、展覧会、園芸講習会などを通じた地産地消の推進	・春・秋の農業まつりでの品評会の開催、湘南花の展覧会及び茅ヶ崎市花の展覧会を開催したほか、初めてイオンで花の直売会を2回行い、園芸講習会は3回実施しました。また果樹の品評会においても市内農家の直売所一覧を刷新し配布するなどして、本市の農業についての理解を深めていただきました。水産物についても、あったかふれあいデーや生わかめまつりの開催の支援を行い地産地消の推進に努めました。	農産物地産地消 推進事業	農業水産課
海辺の朝市の支援	・定例会へのオブザーバーとしての参加やあったかふれあいデー開催に対しての支援を行いました。	予算額【20,099千円】 決算額【15,551千円】	
道の駅を見据えた商品開発における連携	・白ナスや湘南ポモロンなど茅ヶ崎市独自の特色が出せる野菜の普及を行ったほか、市内の大学や企業などの事業者と連携を取り、流通販路拡大や商品開発などを行いました。		

*事業費は該当する第4次実施計画事業全体の事業費を示すもので「具体的な取り組み内容」個別の事業費を示すものではありません。

成果・課題と評価

成果	評価
・保育園給食及び学校給食において、地場産食材を使用したメニューを提供するとともに、「給食だより」等において地場産食材の周知を行うことができました。 ・各種イベント等を通じて地場産農水産物・加工品の利用促進を進めるとともに、関係機関と協力し、道の駅を見据えた商品開発を行うことができました。	B
課題	
・地産地消の推進は、関係機関と協力することで継続して事業が定着しており、今後も生産者のニーズと消費者の嗜好を踏まえながら、地場産農水産物・加工品を販売する場の充実を図る必要があります。	A: 極めて順調に進んでいる B: おおむね順調に進んでいる C: ある程度進んでいる D: あまり進んでいない E: 積極的な取り組みが必要 -: 取り組みなし(評価不能)

■概要

- ・環境保全型農業(※)に関する技術や事例等の情報提供を行います。
- ・有機栽培や減農薬栽培等に取り組む農業者への補助等を実施します。

■令和元年度の取り組み

(1) 環境保全型農業に関する技術や事例等の情報提供

具体的な取り組み	実施内容	第4次実施計画事業名 及び令和元年度事業費*	担当課
市内小学校への堆肥の提供で畜産及び堆肥、循環型農業(※)の学習機会の提供	・茅ヶ崎市畜産会により、市内希望小学校に堆肥を提供するとともに、浜之郷小学校にて循環型農業の学習機会の提供を行いました。	畜産振興事業 予算額【2,828千円】	農業水産課
生産組合長回覧等を通じた環境保全型農業直接支援対策事業(※)の周知	・4月に開催された生産組合長会議にて環境保全型農業直接支援対策事業に関する資料を配布し、各組合で回覧していただきました。	農業嘱託員に関する事業 予算額【2,184千円】	

*事業費は該当する第4次実施計画事業全体の事業費を示すもので「具体的な取り組み内容」個別の事業費を示すものではありません。

■成果・課題と評価

成果	評価
・市内小学校への堆肥の提供や、循環型農業の学習機会の提供、生産組合長会議への環境保全型農業直接支援対策事業の周知を通じて、環境に配慮した農業の普及啓発を図ることができました。	C
課題	A: 極めて順調に進んでいる B: おおむね順調に進んでいる C: ある程度進んでいる D: あまり進んでいない E: 積極的な取り組みが必要 -: 取り組みなし(評価不能)
・引き続き、様々な機会をとらえて、環境に配慮した農業の普及啓発に努める必要があります。	



浜之郷小学校での学習の様子